

令和 7 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ ミヤシタ トアリ
氏名 宮下 十有

研究期間 令和 7 年度

研究課題名 360 度・広角カメラによる地域の映像記録と共有-星が丘ボウル跡地での実践研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	宮下 十有	現代マネジメント学部	准教授
	亀井 美穂子	情報社会学部	教授

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究は、360 度カメラ・広角カメラで星が丘ボウリング跡地の変化を記録し、本学学生、近隣住民、近隣企業関係者をはじめとする星が丘地域の関連市民を対象に、フィールドワークやイベントを介して映像共有を実施する。映像記録されたモノ・コトへの理解が、実際の撮影活動、共有体験を通して可能であることを明らかにする。本研究以前に代表者によりすでに撮影された映像も含め、本研究で撮影する星ヶ丘やその周辺の 360 度映像（静止画・動画）を、複数名で共有するフィールドワークも実施する。過去のエピソードや現在の環境、今後の展望を収集・調査する。このフィールドワークリサーチで得られたことをこれまで収集している映像によるデジタルアーカイブの利活用の事例を蓄積し、その有効性を明らかにする。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

本研究を推進するため、以下の方策を取る
 記録撮影：星が丘ボウル工事の様子を年間を通して撮影。主として現代マネジメント学部の教室に 360 度カメラ・広角カメラを設置し撮影した。建築関連業者にも理解と協力を求める。
 360 度映像リテラシー教育活動：授業や活動のなかでの 360 度映像の利用と体験ができるよう授業や学生の研究活動での 360 度映像の活用を実施した。
 映像共有とワークショップ：映像記録の共有と、年間の映像を関係者と共に共有する対話のワークショップを実施する
 社会への還元としての成果発表：日本教育メディア学会、日本映像学会等で、これまでの成果をまとめ発表する

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

現在、市民生活の中で映像を撮影・共有することが日常化し、これらの記録は個別のスマートフォンでもアーカイブ化されている。一方で、一般的な市民生活において360度カメラでの記録の撮影や共有する機会は、多いとは言い難い。本研究では、360度カメラを星ヶ丘ボウルの解体現場などの現場、本学内外のイベントなど、ヒト・モノ・景色が変化する場に持ち込み撮影、共有を図るワークショップを企画・実施を行った。これを実践することで、映像によるコミュニティアーカイブへの理解を深め、映像記録とその利活用による文化醸成への貢献を目指すものである。

本研究では、継続する2023年11月から現在に至るまで、星ヶ丘ボウル解体後の再開発工事現場を360度カメラ・広角カメラにて撮影を継続している。映像の撮影にあたっては、2025年度より複数の建築業者が関わることとなり、これまでの成果を示すと共に、撮影についての説明を行った。様々な権利が想定されるため、現時点で一般公開は難しく、動画、静止画とも、関連会社と許可をとりながらの利用となった。一方で撮影は許可されたため、継続することとした。また、これらの撮影資料は、関係者と共有し、宮下が管理、保存している。

映像の一般的な共有が困難な状況となったため、当初企画していた各種イベントでの体験ではなく、360度映像の撮影体験を学生にも促し、教育現場や研究活動で積極的に撮影するよう促した。副次的に学生のワークショップイベントでの出展に360度映像によるVRシステムが積極的に活用されることとなった。

また、2024年度に実施したワークショップの成果を論文にまとめた。また2026年2月26日に昨年と同様、関係者に向けた映像上映による共有イベントも実施した。昨年にくらべさらに参加者が多様化し、工事のありかた、地域の変化についての多くの示唆を得ることができた。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①360度カメラ	②映像記録	③映像共有ワークショップ	④地域映像アーカイブ
⑤メディアリテラシー	⑥メディアコミュニケーション	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

[論文]

宮下 十有・亀井 美穂子 「地域の記録映像の撮影と共有の試み (2) —360度カメラ／広角カメラによるタイムラプス映像の撮影と映像共有ワークショップ—」
椋山女学園大学情報社会学部紀要・2 (2026) pp.67-75

[研究会等発表]

宮下十有 INSTeM Convention 2026 Spring@立命館 OIC 「大人のためのリテラシー：分断の中の協同」での出展